普通学級における英語科の指導
1 年 生 の 場 合

足利市立坂西中学校　加　藤　初　枝

中学校に入学して，新しく英語を学習するということは，4月当初では，各人が各様に希望をもち，生き生きとした気持ちをもって始めるのであるが，1学期も終わり，2学期，3学期ともなると，次第に初心を忘れているものが多くなってくる。

それは，英語科における教師の指導方法にも大きな責任があると思うし，また毎時間の授業をたいせつにし，真剣に学習しない場合や，能力の面でまったくついていけない生徒もいるわけである。

反面，英語の時間になるとおもしろくて，他の教科のときよりは時間が短かいように感じられ，非常に意欲的な態度でのぞむ生徒もいるのである。

このように，普通学級においては，いろいろな能力をもった生徒がいるので，この生徒たちにひとりの教師がどのようにしたらみんなに理解してもらえ，満足のいくような授業をするかが大きな課題となってくる。

私の勤務している坂西中学校では，英語は学校選択となっているので，前述のようなことは，どの教師もよく考え，実行してみてはいるものの，なかなかよい結果が得られないままになっている。私は教師となってから五年になるが，そのことがいつも私の悩みの1つとなっている。

そこで，私はこの問題を少しでも解決に向くよう，ささやかではあるが，ここに実践記録を発表し，みなさまの助言をいただけたら幸と思っている。

1時間の授業のなかに含まれる英語の領域は次の4つにわけられる。Hearing，Speaking，Reading，Writing がそれである。これらをきちんと授業に組み入れ，どの領域も片寄りなく，同じように指導していけばよいのであるが，50分の授業時間内ではどれもという質的なものは期待できないのが普通ではないかとおもわれる。

とくに普通学級のなかには，さまざまな能力をもった生徒がいる，つまり個人差がはなはだしいのである。だから教師が生徒の能力差を考えずに，一斉に指導すると，なんらかの問題点があらわれ，その結果は生徒の授業を受ける表情にありありと理解できないということが教師の目にうけとれるのである。

一般に教師は目標を中位程度の生徒におくが，これでは上位の生徒は物足りない感じがし，そうかといって下位にいる生徒にはむずかしすぎて，ほとんど理解できないということになり，一斉指導は能力差のはなはだしい生徒を一単位としたクラスでは効果はあまり期待できないようにおもう。

しかし，担任教師はかってに能力別クラスを編成できないので，普通学級でもできうるような方法を考えなければならない。それを実際に現状をよくみ，判断して，仮説をたて，実践してみる必要があろう。

ここでは，4つの領域全部については研究していないので，全般的な観点に立ったうえで，どのようにしたら下位の生徒や上位の生徒に満足のいくような授業ができるかの1つの試みにすぎないことを，ここにおことわりしなければならない。

私は指導目標として次の三クラスにわけている。

1. C Class …… Lower Class Students

このクラスに属する生徒は，英語ばかりでなく，他の教科においても，すでにかなり興味を失っている生徒たちで，「私はだめだ」とか「勉強なんかしなくてもいいんだ」といったいわば問題をふくんだ生徒たちである。

これらの生徒には1時間にでてくる新しいことばがなんとか発音でき，書いてみる程度とした。

2. B Class …… Average Class Students

このクラスは教師の指導に時にはあえぐこともあるが，だいたいついていける生徒たちである。これらの生徒には新しいことばの発音・読み・書きなどがわかり，新しい文型なども読めるし，書ける段階で，一斉指導のときの教師の目安におく段階なので，簡単なものであれば日本文を英文にもできるような程度とした。

3. A Class …… Upper Class Students

このクラスは一斉指導の授業では，教師の言うことは，みなよく理解できるので，何回もの繰り返えしのドリルにあきてしまうような生徒たちである。新しいことば，新しい文型はもちろんのこと，話してみることも，読むことも，書くことでさえもよくできるので，B class の生徒たちよりはさらに程度の高い目標をおいている。

たとえば，その日に学習した範囲のところをよく読み，

1．その場面が頭に浮かぶならば，絵で説明させる。

2．文の要旨を日本語か英語でまとめさせる。

3．会話の部分や文章の一部を語を変えて応用練習させたり，書かせたりさせる。

または数人のグループでSituationをつくって話しかたの練習をさせる。

4．暗唱させる。

次に各クラスごとに問題の例をあげてみる。テキストはJunior Crown English Course を使用している。そのBook Ⅰ のLesson 27（P90）を例としている。

Cクラス

1．次のことばは何と読みますか。できるようになるまで練習しなさい。

a. building　b. low　c. high

2．1のことばを何回も書いておぼえなさい。

Bクラス

1．次のことばを英語で書きなさい。

a．建　物　b．低　い　c．高　い

2．1のことばの中には反対語があります。それを書きなさい。ほかにもあなたの知っている反対語があるでしょう。知っているだけあげなさい。

3．次の語句を日本語では何と言いますか。

a. a high building　b. a low building　c. those buildings

Ａクラス

1．今日読んだところの情景を頭にうかべなさい。そしたらそれを簡単にスケッチしてみなさい。

2．この会話はSusieとMr. Brown ですが，人物を次のように変えて言ってみなさい。

Susieさんを Mariko

Mr. Brown さんを Mrs. Brown

今度はあなたの好きな人物にかえてやってみなさい。

3．内容を簡単にまとめて，日本語か英語で書いてみなさい。

4．できるだけ全文を暗唱しなさい。

これらの作業は50分の授業時間のうちの後半の20分内外でやるようにしている。それまでのIntroduction，Explanation，Readingまでの段階では，だいたい一斉に指導することにしているので，最後の段階で能力差を考えた指導ができるとおもう。これにはAという生徒はBクラスとか，Bという生徒はCクラスというように初めから生徒を固定したランクづけをしておかないで，このランクは各生徒が好きにきめていく方法になっている。

これでいくと各自がCからAクラスの問題をどのクラスまでその時間内に正しくやることができたかによって各ランクがきまるのである。その日によってクラスはかわることがあっても当然である。

次に各ランクの達成度をあげてみる。

Ａクラス……Ｃ・Ｂ・Ａクラスの全部の問題ができた。

Ｂクラス……Ｃ・Ｂクラスの問題ができた。

Ｃクラス……Ｃクラスのみができた。

これでわかることは，ＢクラスやＡクラスに属する生徒たちはたいてい毎時間Ａクラスになるように努力しているが，Ｃクラスに属する生徒たちはいつもＣクラスばかりで，たった三語しかない語をおぼえるのに精いっぱいという状態か，あるいは，まったくやる気持ちのない生徒たちである。このような生徒たちには一斉にHearing，ReadingやSpeaking などの指導をしているときも，他の生徒たちと一緒についていくことができないのが普通である。しかしついていけないからといって教師は放任しておくこともできないのであるから，Reading の最後のところで全員に起立させ，読めた者には着席させＣクラスからＡクラスまでの問題をやらせるが，読めない場合は毎時間４，５人程度いるが，数分間立たせておかなければならない。これらの生徒たちに対して，教師はかれらを前に呼び出し，ひとりひとりの個別指導を始めるのである。

このときは一斉指導のとき，まれにかほとんど読めなくとも，一語一語をゆっくりとていねいに指導し，また何度でも繰り返えさせるので，たどたどしいながらも，わかったというような満足感をもつことができるのである。

こうして手とり足とりの指導により「私にもやればできるようになる」といった学習意欲が徐々にではあるが，もりあがってくるので，Ｃクラスの生徒にはかなりの効果が見られるような気がする。しかし，教師は非常に忍耐強く，あたたかい気持ちを生徒たちにたえず注ぐ必要があるので，なかなか骨のおれることである。

また，同じような方法で，ときどきＡクラスの生徒数人に，教師の助手的な役割をしてもらうこと

がよくあるが，これは先生対生徒といった上と下との関係ではないので，できの悪い生徒は親しみをもって恥かしさもあまりなく質問でき，よく理解できるようになるまで指導をしてもらえるので，気楽に効果をあげることができるのである。

これらの指導を通してわかることは，Ｃクラスにいつもいる生徒にいくらかでも明るい希望が持てるような意欲づけが非常に大切なことに気づくのである。Ｃクラスの生徒たちは日常の授業のときにはいつもお客さま扱いか，あるいはまったく無視されて，いつも立つ瀬がない立場にいるのである。

こうなるには，それ相応の原因が過去から現在までにあったからにちがいないのである。教師はその原因をあまり診断もしないで，たゞかれらを無能あつかいしたり，お客さまにしたりしてはいけないと思う。かれらはＡクラスやＢクラスにいる生徒たちよりは理解のしかたがやや遅いのであろうと思われるから，このような生徒たちに一斉指導をしてＢクラスに目標をおいた授業をすれば，毎時間ついていけなくなるのは当然である。

たとえば，あるところをかなり詳しくやっていて，やっとのことで理解できたとしても，他の生徒たちはすでにずっと先に進んでいるという状態なので，なかなかむずかしいことである。

普通学級ではＣクラスの生徒の面倒ばかりみてはいられないので，私はかれらにもっとdrillしてあげられるようなSituationをつくるのがよいのではないかと思っている。

授業時には，かれらにもできそうなことを教師が進んでやらせ，少しずつの成功感の積み重ねを経験させるのはよいことだと信じている。そしてときおりほめことばや暖かい励ましのことばがかれらにとっては，いかに重要なことかを感じざるを得ないのである。

この反対の立場をとるのは，Ａクラスに属する生徒たちではないだろうか。かれらは授業内容はよく理解できるし，自分から進んでどんどんやっていけるので，動機づけや意欲づけの必要はほとんどない。しかし，このクラスの生徒たちには，ほめることばは少なくして，時としては反省させるような指導をすることも効果があるようである。

中位にいるＢクラスの生徒たちは上にも下にも競争相手がいるので，完全に能力別にわけられたクラスにいるよりは効果もあがるしかなりの伸びが期待できる可能性をもっている。そして，生徒の心のどこかに，いつも希望目標がたつのではないかと思う。

最後に忘れてはならない一つとしては，その結果がどうなっているかを知ることが要求されてくる。従来のように，たんなるペーパーによるテストだけの結果ではあまりにも頼りなさを感ずるので，ペーパーによるテストもその結果をみる一部分であるが，教師は生徒たちの授業中の学習態度や家庭における自発的な学習意欲，その他あらゆる観点に立った上での結果をみる教師のたゆみない努力がたいせつになってくるのではないだろうか。

評

自然学級内における能力差に応じた指導技術こそ，能力別編成指導の基盤であるといわれているようです。この記録は，中1の段階であっても，能力差に応じてかなり手のこんだ指導ができるという．好例を示したものであり，学習成立の条件である全生徒の参加ということを，文字どおり実行されております。

1年生の能力差が顕著になる時期として，ア．入門期以後reading，writing がはいったとき，イ．'be'動詞から一般動詞へ移行するとき，ウ．3単元Sが出現するとき，エ．家庭学習の比重が大きくなるとき，を挙げている人もいますが，詳細に吟味しますと，各所に落伍者をうむ危険をはらんでいるといえそうです。

このような一斉指導のあとの，20分程度の小集団指導は，時間的にも，内容的にも，当をえていると思います。ただ，適切な到達目標の設定と，言語材料の精選が叫ばれていますが，1年の段階では，特殊なものを除いて，できるだけ，語，文型，文法事項等の全部を指導したいと思います。この考え方は，新指導要領案にも，「外国語の集積的な性格から，低学年においては，言語材料の取り扱いについて，軽重を設けることは，なるべく避けるように。」という趣旨のことがでているようです。

最後に，先生も御指摘のように，「A～Cのランクが，可動的なものとなっている。」ということは，低学年においては特にたいせつなことで，ある一面のみをとらえて，生徒をランクしがちなことを，戒めています。生徒には，視覚型，発表型，筆記型などいろいろあるようです。そして，Cと思われたものが，ある時期に急激に，成績が向上してくるのも，ままあることですから。